

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2018年1月
第31号
(年4回発行)

新年号

発行部数3千部



「一年の節目となる正月」／ 丹羽義昭住職インタビュー
シリーズ浄土宗／浄土宗の本尊「阿弥陀如来像」の特徴

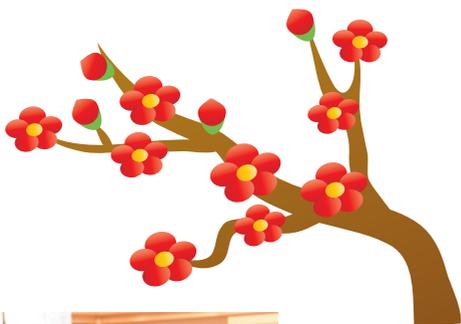
実践教室／お賽銭の意味

・七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会) ご案内

・厄払い節分会法要のご案内

丹羽住職インタビュー

一年の節目である正月。本来は、他の毎日と同じ時間の繋がりの一箇所に過ぎませんが、人はそこを節目として気持ち新たにすることで襟を正すことができたり、前向きになることができるのではないのでしょうか？ 平成二十九年は皆さんにとってどのような一年でしたか？



丹羽住職

問 気付けば、「さんが」でも、もうお正月の話をする季節になってしまいました。来年は、平成生まれも三十歳になる年だなんて…。年末になると時の流れの速さを実感してしまいますね。この365日の間に何があつたけ？ と思つてしまいます。

住職 そうですね。本当にめまぐるしい日々で一年があつと言う間に過ぎてしまったけれども、私だけでなく、どんな人もよく思い返せば、それぞれ大きなことや小さなこと、楽しかったり辛かったり色々なことがあつたのではないのでしょうか。「こうしておけば良かったな〜」なんて思うこともあつたかもしれませんが。年末年始は、過ぎた一年を振り返ることのできる良い節目ですね。

問 ご住職にとって、平成二十九年はどのような年でしたか？

住職 実は、還暦を迎えました。人生の節目でもあるので、それを機会に学生時代の同窓会を開催することになったんです。日頃連絡を取り合わない同級生や恩師など；改めて人の繋がりにについても考える年でした。

問 地域社会、親戚付きあいなど直接対面するような人間関係が希薄になったと言われて久しいですが、確かに、同窓会など目的をもって人が集うことがあると繋がりを感じますね。

住職 法事などもそうですよ。親戚や独立し離れて暮ら

す家族が顔を合わせる良い機会です。先日あった法事では、三世代の家族が集まって執り行ったのだけれども賑やかで良かったですよ。最近も、都合がつかないとか、小さな子どもがいるので参列を遠慮するなど様々な理由で法事に集まる人数も少なくなっています。が、普段なかなか会えないからこそ、亡くなった方をご縁に家族や親戚が集まることは、自身と人の繋がりを実感できるのでないでしょうか。

問 法事というと厳肅な場ですし、赤ちゃんが泣いたり、子どもが退屈して騒いでしまったらどうしよう。と考えて参列を躊躇してしまうのかもしれないですね。

住職 赤ちゃんが泣いたって、子どもたちがはしゃいだっていいんですよ(笑)。親戚一同が参集することが大切なのです。是非そういう場を経験させてあげて欲しいと思います。

問 そうですね。ところで、今年、ご住職は還暦を迎えたとのことですが、関わりの深い草加市も来年は、市制六

十周年だそうですね。節目ということでは何か行事があるのでしょうか？

住職 ええ、そうなんです。草加市は小学校や中学校に土俵があるなど、相撲が深く根付いていることもあって、何年かに一度、大相撲の場所を開くのです、それもちょうど六十周年と合わさって「大相撲 草加場所」を開催することになっています。

問 それは楽しみです。平成の元号も来年いっぱい変わるようですよ。色々な意味で節目の年となりそうですね。

住職 笑う門には福が来るとい言葉にもあるように、来年は明るく笑いの多い年にしたいですね。そして、新年早々にある西願寺の七草粥のウォークや七福神巡りや二月の節分会をはじめお寺の年中行事には皆さんに参加して頂きたいです。

問 七草粥の会や節分会など参加される方も年々増えて皆さん楽しんでいらっしゃるようですね。今回は新年号と

いう事で節目の話が多くまりましたが、節分も文字通り季節の節目ですね。それでは、最後に一言お願いします。

住職 大晦日と元旦の間には、本来何の境目もない単なる時間の連続ですが、人はそこに気持ちの中で区切りを付けることができるものです。節目節目に自らを振り返り、また新しく前に踏み出せる。そのような気持ちで新年を迎えたいですね。

問 ありがとうございます。新年もよろしくお願い致します。



西願寺参道

平成三十年より、毎年八月に執り行われていた「西願寺大施餓鬼会」の日程が五月に変更になります。

浄土宗の本尊

阿弥陀如来像の特徴



西願寺 弥陀三尊像



阿弥陀如来立像



飾品をつけている)

阿弥陀如来像が他の仏像と大きく異なる特徴は頭光と印相にあります。頭光は「後光」と呼ばれる頭の背後にある造作物のことで、阿弥陀如来の場合は光り輝く身光が48の線で表したものが多数ありますが、浄土宗では、船形の光背が多いようです。また、阿弥陀如来像は歴史とともに次第に立像が多くなり、それは衆生救済のため立ち上がった姿を表していると言われています。

手の形で見分ける

阿弥陀如来像と釈迦如来像は非常に似ており、その見分け方の一つとして手の形が挙げられます。この形は印相といひ阿弥陀如来の特徴として来迎印が挙げられます。上品上生じょうぼんじょうしょうから下品下生げほんげしょうまでの九通りの来迎印を九品来迎印と呼びます。九品来迎印くほんらいごういん

座禅のときのように両手を足の上におくのが上品、両手を胸の前に置くのが中品、右手を方の前、左手を下の方に下げるのが下品。上品、中品、下品をそれぞれさらに上生、中生、下生の三つにわける印相です。(次ページ参照)

浄土宗の阿弥陀如来像

浄土宗の寺院本堂では須弥壇の中央に阿弥陀如来を配置し、脇侍として向かって右側に観音菩薩、左側に勢至菩薩が祀られています。これを弥陀三尊と呼びます。

仏像の多くは釈迦の姿を模して造られ、菩薩の像は出家前の姿を、如来像は出家した後の姿をモデルにしています。出家する前のお釈迦さまは、古代インドの王子でしたので、菩薩は身を着飾る装飾品を身につけています。一方、如来像は、出家後の姿ですので、装飾品は一切身につけず、一枚の衣だけを身にまとった姿で造られます。(大日如来だけは装

観音菩薩の音は人々の救いを求める音(声)でそれを観る、つまり聞き取るという意味。勢至菩薩は、智慧の光ですべてを照らし、人々の迷いを取り除く菩薩といわれています。

お賽銭の意味／お寺の鐘

もうすぐお正月ですね。お正月といくと、大晦日には、除夜の鐘に耳を傾け神社・仏閣に初詣に出かける人も多いと思います。そこで目にする賽銭箱。さて、お賽銭にはどのような意味があるのでしょうか。



お賽銭の意味

賽の字には「報い奉る」という意味があります。神仏に感謝しお金を供えることです。昔は、お金ではなく珍しいものや大切なもの、お米などが供えられました。中でもお米を供えることが多く「散米」と呼ばれていましたが、やがて貨幣ができて一般に流通するようになると、貨幣を供えるようになり「賽銭」となったといわれています。

本来は、感謝するために寺社に参詣していたのが、いつの間にかもともとの意味を離れ、「願い事を叶えてもらうために「賽銭」をする」と考える人が多くなっているようです。原点に立

ち返り感謝の心をもって手を合わせたいですね。

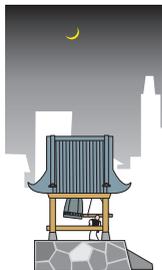
お寺の鐘

お寺の鐘は、正式には梵鐘といいインドから中国を経て日本に伝来しました。「梵」はサンスクリット語のBrahma（神聖・清浄）を音訳したものです。

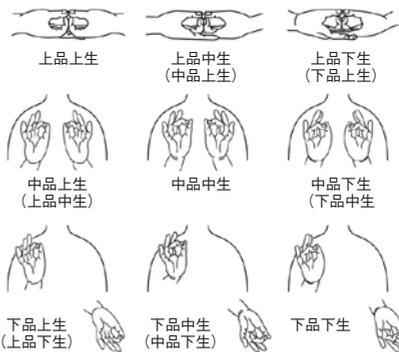
日本最古の梵鐘は奈良・法隆寺の金堂の背後にあるものといわれています。また、鐘の内側に製造年代と推定される銘文が記載されたものでは京都・妙心寺の梵鐘（国宝）が、日本に現存する最古の梵鐘だといわれ文武二年（698年）となっております。

私たちが梵鐘を身近に感じるのは大晦日に撞かれる除夜の鐘ではないでしょうか？人の心の中にある煩惱の数を表すといわれる百八の鐘は撞き鳴らすことで一つひとつ取り除かれるという意味も込められています。

大晦日は、除夜の鐘に耳を傾け過ぎゆく一年を反省し、新たな気持ちで新年を迎えましょう。



●阿弥陀如来の九品来迎印●



暮らしの中の 仏教語

「お世辞」【おせじ】

あまりに見え透いたお世辞に「口が痒くない(笑)?」と思うことってありませんか？でもこのお世辞の言葉も仏教語なんです。辞書では「世」の字が充てられています。本来は施辞といい言葉を施すこと。仏教では人に何かを与えるという布施行の一つなのです。



厄払い節分会法要 (豆まき)のご案内

西願寺では、節分会法要を開催いたします。当日は、厄払い法要の後、関取による豆まきが行われます。

平成30年度に前厄、本厄、後厄にあたる善男善女の方は是非お申込みご参加ください。

眞加料 10,000円

(祈祷料、会食代)

日時 平成30年2月3日(土)

10:00 受付

10:30 節分会法要

11:30 豆まき

※尚、豆まきのみ

ご参加は、浄財と

してお賽銭(灯明料)をお願いいたします。



遊馬町会 七福神めぐりウォーキング (新年開運七草粥の会)のご案内

毎年恒例となりました、新年開運七草粥の会。七福神めぐりのウォーキングと併せどなたでも楽しく参加できる行事です。お気軽にご参加ください。7カ所の神社寺院をめぐり御朱印をいただきます。



ゴールの西願寺では記念品が手渡され、開運七草粥が振る舞われます。

日時 平成30年1月7日(日)

10:00から12:00の時間内で
巡っていただきます

参加費 100円(※保険料として)



西願寺 平成29年度十三夜お月見 チャリティーコンサート開催報告

毎年、秋に開催される西願寺お月見チャリティーコンサートが11月2日に開かれました。華やかな女性のカルテットが奏でる音色が本堂に響き参加の方々の耳と心を和ませました。



Q & A

Q 親の納骨を済ませ先日、相続の話の中で、この先祖代々のお墓を姉妹の誰が承継するか決めなくてはならなくなりました。お墓を承継した場合、その分相続財産を減らすべきでしょうか？



A お墓を継承したことによって相続財産の相続分が減らされることはありません。お墓は相続財産にはあらず、別個の「祭祀財産」となります。どんなに価値のあるお墓や仏壇であっても、土地・建物・家具などと違いお墓を売って換金することは殆どできません。ですから祭祀を継承することで相続分が減らされることはないのです。

掲 示 板

彩の都メモリアルパーク 管理事務所 年末年始休業のお知らせ

◆年末年始休業日◆

平成29年12月27日(水)～

平成30年1月3日(水)

年末年始の休業期間は管理事務所における事務手続き、電話問い合わせなどの業務はおこなえません。

尚 墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にいらしてください。

平成30年 年回表

年ごとの命日を祥月命日といい、年回にあたった年の、この日に行う法要が年回(年忌)法要です。この法要では亡くなった方とご縁のある方が集まり、故人を偲びながらお勤めします。

1周忌	平成29年逝去	37回忌	昭和57年逝去
3回忌	平成28年逝去	50回忌	昭和44年逝去
7回忌	平成24年逝去	100回忌	大正8年逝去
13回忌	平成18年逝去		
17回忌	平成14年逝去		
23回忌	平成8年逝去		
27回忌	平成4年逝去		
33回忌	昭和61年逝去		



彩の都メモリアルパーク管理事務所
TEL. 048-921-4194

西願寺

TEL. 048-925-1723

西願寺 平成30年 年間行事案内

- ※1月 1日(月) 修正会(新年をむかえての法要=おつとめ)
- ◎1月 7日(日) 七福神めぐりウォーキング(新年開運七草粥の会)
- ※1月25日(木) 法然上人御忌
- ◎2月 3日(土) 厄払い節分会法要
- ※2月15日(木) 涅槃会(お釈迦さまの命日)
- ◎3月18日(日) 春の彼岸会
～24日(土)
- ※4月 8日(日) 灌仏会(花まつり)
- ◎5月25日(金) 大施餓鬼会
- ◎7月13日(金) お盆会(東京棚経)
～15日(日)
- ◎8月 5日(日) 合同新盆供養
- ◎8月13日(月) 旧盆会
～15日(水) (地元棚経)
- ◎9月20日(木) 秋の彼岸会
～26日(水)
- ◎10月19日(金) 第9回十三夜お月見コンサート
- ※11月23日(金) 十夜会(念仏をとなえて善根をつむ法要=おつとめ)
- ※12月 8日(土) 成道会(お釈迦さまのお悟りの日)
- ※12月25日(火) 仏名会(念仏をとなえて一年を反省する法要=おつとめ)



毎月25日は念仏会を開いております

◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。

※印は現在、寺だけで自的に行っている法要=おつとめです。

■お便り募集■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、ぜひお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんか」編集部
東京都千代田区飯田橋四・七・十一カクタス飯田橋ビル7F
FAX 03(32005)1600 Mail: info@io-con.net

■次号予告

次号は平成三十年二月発行予定の「春のお彼岸号」です。



◆編集後記

平成二十九年もあと残りわずかとなりましたね。慌ただしい年末を迎え、大掃除が終わるといよいよ平成も30年を迎えます。平成生まれと言われた子たちも30歳になってしまおうとは…。新年は戌年。ちなみにも戌年にも種類があつて平成三十年は「戌戌」(つちのえいぬ)年だそうです。今年「猫ブーム」と言われていましたが、戌年の来年、犬派の巻き返しはあるのでしょうか？

さて、今号では戌年の守り本尊でもある阿弥陀如来像について掲載しております。仏像は、造られた時代で、顔つきや姿が変化しているのも興味深いですよね。阿弥陀如来像で言うくと、京都東山 永観堂の「みかえり阿弥陀像」-「アフロ仏像」とも言われて親しまれている奈良 五劫院の「五却思惟阿弥陀座像」などは特にユニークで仏像にまつわる逸話も楽しめます。初詣でお寺にお参りする際は、ご本尊をじっくりと眺めてみるのもおすすめです。

来年も皆さまにとってよい年となりますように。2018年も宜しくお願い致します。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三三〇〇一〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三〇〇一〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部